

「特集：2018年 IWA（国際水協会）世界会議・展示会（Ⅱ）」

## 第11回 IWA（国際水協会）世界会議・展示会（東京）報告

日本水道協会研修国際部国際課

2018年9月16日～21日に、東京で第11回 IWA（国際水協会）世界会議・展示会が開催された。本協会では、本会議・展示会の招致から携わっており、開催国委員会の一員として本会議・展示会に参加したので、その開催内容について報告する。

### 1. はじめに

#### (1) IWA について

水の効率的な管理と水処理技術の向上を通して、世界における安定的かつ安全な水の供給及び公衆衛生に寄与すること等を目的として設立された非営利機関である。世界165カ国に、約8,500名の個人会員、約530の団体会員（水道事業者、研究機関、水関連企業）を有する。

#### (2) 第11回 IWA 世界会議・展示会について

IWA が2年に1回開催する会議で、世界中から産官学の上下水道などの水分野の関係者が一堂に会し、新たな知見や技術を共有する上下水道分野に関する世界最大規模のイベントである。

日本はこれまで、過去3回、本会議の開催国に立候補してきたが選定に至らなかった。2018年開催地への立候補にあたっては、産官学一体となりオールジャパンの IWA 世界会議招致推進委員会を設立し、招致活動を推進した。その結果、2013年の IWA 理事会において2018年東京での日本初開催が決定されている。

2015年9月には、本会議の開催準備及び会議運営を円滑に実施する事を目的として、2018年第11回国際水協会（IWA）世界会議・展示会開催国委員会（以下、開催国委員会）が設置され、本協会では事務局として本会議成功に向けて活動してきた。

結果として、過去最高の参加者数等を記録し、盛会裏に終了したが、その開催結果は以下のとおりである。

なお、会議登録者の地域別、所属組織別の内訳は図-1及び図-2のとおりである。

名 称	World Water Congress & Exhibition 2018
期 間	平成30(2018)年9月16日(日)～21日(金)
会 場	東京ビッグサイト
会議テーマ	Shaping our water future（水未来の形成）
開催結果	参加者数 98カ国9,815名（有料登録2,846名）
	セッション数 107セッション
	➤ 口頭発表：352編（うち日本より95編）
	➤ ポスター発表：633編（うち日本より388編）
	ワークショップ 38セッション
	フォーラム 6セッション
	展示会出展者数 32カ国252者

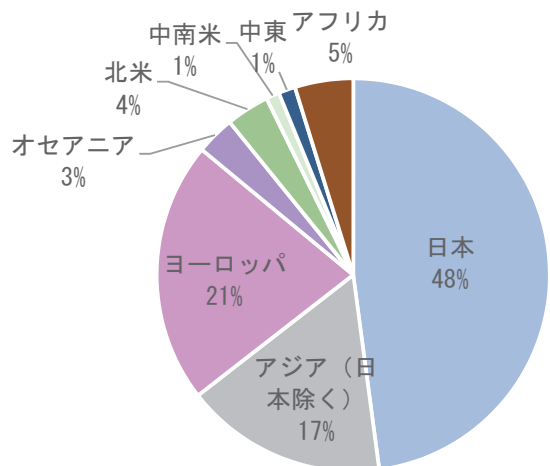


図-1 地域別会議登録者の割合 (9月12日時点)

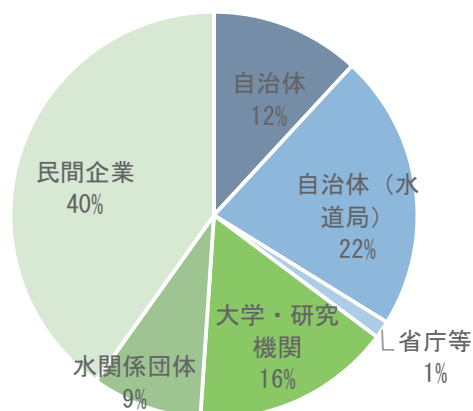


図-2 所属組織別日本人参加者の割合 (9月12日時点)

## 2. 会議の概要

### (1) 開会式 (9月16日 国際会議場)

開会式は、IWA 活動紹介ビデオの上映と共に幕を開けた。Kala Vairavamoorthy IWA 専務理事の司会の下、Diane d'Arras IWA 会長、小池百合子東京都知事の挨拶の後、皇太子殿下からおことばをいただいた。引き続き、石井啓一国土交通大臣、中川雅治環境大臣、高木美智代厚生労働副大臣、大串正樹経済産業大臣政務官、丹保憲仁日本水フォーラム副会長、古米弘明 IWA 東京会議議長の順に挨拶し、世界が直面している様々な水問題解決には、世界の水専門家が最新の知見、技術を共有することが必要不可欠であり、そのような情

### 2018年第11回国際水協会 (IWA) 世界会議・展示会開催国委員会

#### 【役割】

日本国内における IWA スポンサーの獲得、会議参加者や出展参加者の促進活動の他、会議運営について IWA に対して様々な提案を行う。

#### 【委員名簿】 (2018年7月31日時点)

会 長	東京都知事	小池百合子
委 員 長	日本水環境学会顧問 (東京大学大学院教授)	古米 弘明
副 委 員 長	東京都水道局長	中嶋 正宏
〃	東京都下水道局長	小山 哲司
〃	日本水環境学会会長 (京都工芸繊維大学教授)	小野 芳朗
〃	日本下水道協会理事長	岡久 宏史
〃	日本水道協会理事長	吉田 永
委 員	厚生労働省医薬・生活衛生局水道課長	是澤 裕二
〃	経済産業省製造産業局 国際プラント・インフラシステム・水ビジネス推進室長	吉岡 孝
〃	国土交通省水管理・国土保全局水資源部水資源計画課長	溝口 宏樹
〃	国土交通省水管理・国土保全局下水道部流域管理官	天野 雄介
〃	環境省水・大気環境局水環境課長	熊谷 和哉
〃	水資源機構理事長	金尾 健司
〃	国際協力機構地球環境部長	武藤めぐみ
〃	日本下水道事業団理事長	辻原 俊博
〃	日本下水道新技術機構理事長	江藤 隆
〃	日本下水道施設業協会専務理事	堀江 信之
〃	水道技術研究センター理事長	大垣眞一郎
〃	日本水道工業団体連合会専務理事	宮崎 正信

表-1 主要日程

	9月16日	9月17日	9月18日	9月19日	9月20日	9月21日
開会式	16:00-18:00					
ウェルカム・レセプション	18:30-20:00					
基調講演		9:00-9:45/17:30-18:15 (20日は朝のみ)				
口頭論文発表・ワークショップ等		10:30-12:00/13:30-17:15 (20日は15:00まで)				
ポスター論文発表		12:00-13:15 (掲出は全日)				
閉会式					15:15-16:45	
展示会		9:00-18:00 (20日は15:00まで)				
その他イベント		PIA 授賞式	ガーデン・ナイト		ガラ・イブニング	テクニカル・ツアー

報共有の場として、初の日本開催となる世界会議への期待を語った。

第一部が終わると6名の和太鼓奏者が会場後方より入場し、客席の間を歩いてステージに至る演出とその勇壮な迫力で幕間を沸かせた。

第二部では、基調講演のほか、功績が著しい研

究者や企業に対し IWA より賞が授与された。また、Patel 家族基金を創設した Patel 博士、次回の世界会議開催国であるデンマークの Jacob Ellemann-Jensen 環境食糧大臣より挨拶があり、最後にスリランカの Ralf Hachime 都市計画・上水大臣より閉会の辞が述べられた。



開会式会場

## (2) 基調講演

基調講演は、会議開催期間中の9月17日から20日にかけて、朝9時からと17時30分からの2回(20日は朝のみ)、国際会議場にて開催された。発表テーマは開催国委員会からの提案をもとに IWA が決定したが、時宜を得た内容となっており、発表者はそれぞれの専門分野の知見を熱心に語っていた。なお、各日程の講演者とテーマは表-2のとおりである。

表-2 基調講演

日程	スピーカー	講演テーマ
9月17日 朝	小池 俊雄 ユネスコ後援機関 水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) センター長	Recent developments in the field of risk identification, reduction and management : リスクの同定、削減、管理の各分野における最近の動向
	小池 百合子 東京都知事	For a Sustainable Urban Water Cycle : サステイナブルな水循環都市の構築に向けて
夕方	Silver Mugisha Chief Executive Officer, National Water and Sewerage Corporation, Kampala, Uganda	The institutional issues in strengthening and expanding a utility in the socioeconomic context of lower and middle income countries : 低・中所得国における社会経済的な側面からの設備促進にあたっての制度的な課題

日程	スピーカー	講演テーマ
9月18日 朝	Claudia Sadoff Director-General, International Water Management Institute (IWMI), Colombo, Sri Lanka	The status of and outlook for Sustainable Development Goal 6 : 持続可能な開発目標 6 の現状と今後の展望
夕方	大垣 眞一郎 公益財団法人 水道技術研究センター 理事長	Decision making with uncertainty – challenges facing water professionals : 不確実性に満ちた時代における意思決定のあり方 - 我々が直面している課題は何か
9月19日 朝	Sudhir Murthy CEO, NEWhub, USA Mark van Loosdrecht Chair professor in Environmental Biotechnology, Delft University of Technology, Netherlands	The diffusion of innovation remains a big challenge : イノベーションの普及は大きな課題
夕方	Rebekah Eggers Global Water Leader, WW IoT, Energy, Environment, & Utilities Business, IBM	“From Drips and Drops to Bits and Bytes”: The digitization of water and impacts on utilities : 水分野のデジタル化
9月20日 朝	Lars Therkildsen CEO, HOFOR, Copenhagen, Denmark	The options and opportunities for a big multipurpose utility : 多目的ユーティリティの選択と機会

### (3) 口頭論文発表

#### ① 概要

IWA 世界会議における論文発表は、会議開催前年の秋期にアブストラクトの募集が行われ、IWA プログラム委員会の査読の結果、開催年の4月頃に採否が発表される。今回のアブストラクト提出数は1,723編と過去最高であり、採用された口頭論文発表数は352編 (IWA 発表) と、非常に狭き門であった。採用された論文は、次の6つのトラック (主要テーマ) に分類され、1セッション4編程度で、各々15分間の発表が行われた。

- トラック 1 水事業経営 92編
- トラック 2 下水 118編
- トラック 3 飲料水と飲料水再利用 60編
- トラック 4 都市の水システム 32編
- トラック 5 コミュニケーション、統合的計画、実現可能な環境 28編
- トラック 6 大規模な水管理 18編

※プログラムブックより

開催国である日本からは約3割を占める95編の発表があった。次いで32編の中国、22編のオーストラリアと続いた。地域別の発表者数は以下のとおりであり、開催地域であるアジアに次いで、次回世界会議開催地のデンマークから多くの参加があったヨーロッパ、そしてオセアニアの順となっている。

- アジア 166編
- ヨーロッパ 118編
- オセアニア 22編
- 北米 19編
- 中南米 10編
- 中東 7編
- アフリカ 6編

※プログラムブックより

なお、本協会からは、「地震等緊急時対応の手引き」による相互応援体制の取組みや JWWA 規格 Q100「水道事業ガイドライン」活用による水道事業の業績改善をテーマとした2編を発表した。



口頭発表の様子

(4) ポスター論文発表

論文審査の結果、ポスター発表となった論文は、展示会場前のアトリウムに掲示される。今回は、これまでで最高の633編（IWA 発表）が掲出され、地域別の内訳は以下のとおりである。

- アジア 491編
- ヨーロッパ 121編
- 北米 18編
- 中南米 17編
- アフリカ 16編
- オセアニア 11編
- 中東 10編

※プログラムブックより



ポスター掲出風景

なお、ポスター論文発表者も5分間ではあるが口頭発表の機会が与えられており、口頭論文と同様の6トラックに分類されたあと、さらに27のセッションに分けられ、昼食時間中の空いているセッションルームを利用し、462編の発表が行われた。トラック別の発表数は以下のとおりである。

- トラック1 水事業経営 80編
- トラック2 下水 294編
- トラック3 飲料水と飲料水再利用 159編
- トラック4 都市の水システム 76編
- トラック5 コミュニケーション、統合的計画、実現可能な環境 37編
- トラック6 大規模な水管理 38編

※プログラムブックより

このうち、日本からは388編の発表があり、次いで中国73編、韓国21編であった。口頭発表と同

様にアジア、ヨーロッパからの発表が大半を占めていた。

なお、本協会からは、水道事業の人材育成や水道料金設定をテーマとしたポスター2編を掲出し発表した。



ポスター発表の様子

(5) ワークショップ

IWA 世界会議では論文発表とは別枠で、IWA ワークショップの提案も募集される。提案にあたっては、ワークショップの主旨や見込まれる成果等の提出が求められ、こちらも IWA プログラム委員会によって審査される。分野別の割合は図-3のとおりである。

なお、本協会では IWA に対し、次の2つのワークショップを提案し、7カ国の水道協会幹部をス

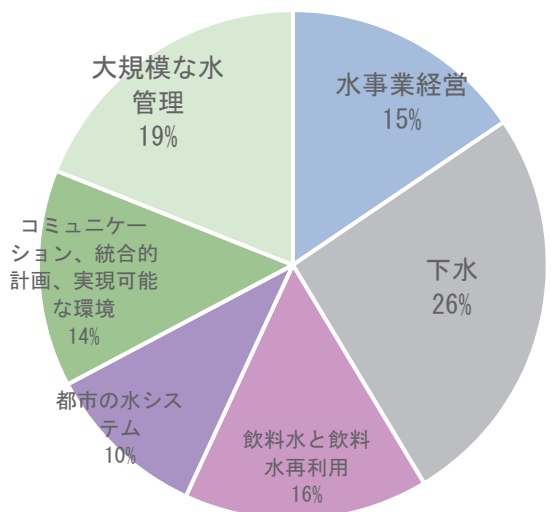
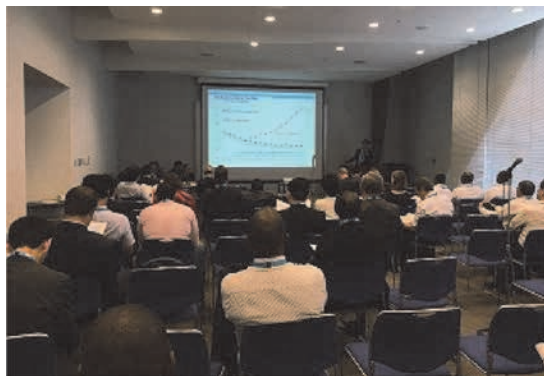


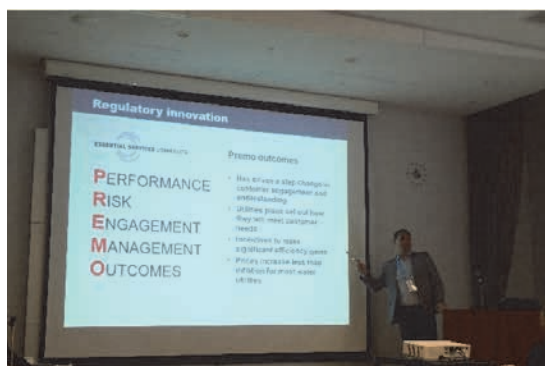
図-3 分野別ワークショップ割合 (プログラムブックより)



ピーカーとして招聘し、各国の実情を情報共有した。なお、本誌本号掲載「第11回 IWA 世界会議・展示会における本協会の活動」にその詳細を報告している。



ワークショップの様子



各国より実情が共有された

(6) 水団連主催フォーラム「質の高い日本の上下水道～革新的技術と産官学の取組み～」(9月16日)

本会議の開会に先立ち、日本水道工業団体連合会主催、開催国委員会共催によるフォーラムが開催された。

日本の上下水道インフラの変遷や技術開発が果たした役割について、産官学それぞれの視点からの発表が行われた。

(7) レジリエントな都市に向けた災害及び危機管理対策に関するフォーラム (9月17日)

開催国委員会提案のテーマによる IWA フォーラムが、国際会議場において行われた。日本は過

去に様々な災害に直面し、これを克服してきた経験があることから、本フォーラムは、都市における上下水道の強靱化に焦点を当て、国内外の水の専門家による講演及びパネルディスカッションを行った。

第一部では、「東日本大震災から学んだ教訓－上下水道の回復－」をテーマに、宮島克金沢大学大学院教授をはじめとした各分野からの専門家による講演のほか、パネルディスカッションでは、滝沢智東京大学大学院教授が大震災の教訓を講演した。

第二部では、「レジリエントな都市に向けて－水の安全性の強化－」をテーマにデンマーク、英国、日本の専門家を迎え、事例報告を踏まえた討議が行われた。

第三部では、「レジリエントな都市に向けて－レジリエンス強化の機会としての上下水及び排水－」がテーマの3名のスピーカーによる講演に続いてパネルディスカッションが行われた。

(8) ジャパンビジネスフォーラム「巨大都市における水管理」(9月19日)

ビジネスフォーラムは通常展示会場内のプレゼンスペースで行われる比較的小規模なものであるが、本フォーラムは開催国委員会が大規模なビジネスフォーラムの開催を IWA に要請し、国際協力機構 (JICA) が後援となり、国内外の水の専門家をスピーカーとして招き開催された。満席となった会場の国際会議場では、開始に先立ち、本協会吉田理事長が「フォーラムを通じて巨大都市の水管理の発展に繋がることを期待している」と開会の挨拶を述べた。

テーマ「巨大都市における水管理」については、日本の巨大都市東京が歩んできた経験を海外に対して発信することを念頭に決定された。第一部では、東京が直面してきた課題や課題解決の知見やノウハウ、途上国 (ミャンマー、ベトナム) の大都市が現在直面する水分野の課題が発表された。第二部では、滝沢東京大学大学院教授を座長として、国内企業による課題解決のための事例紹介をもとに、発表者全員による有意義なパネルディスカッションが行われた。



ジャパンビジネスフォーラムで  
開会挨拶をする吉田理事長

### 3. 展示会

9月16日から22日（16日は開会式参加者のみのウェルカム・レセプション）にかけて、東京ビッグサイト西1ホールにおいて大規模な展示会が開催された。展示面積はIWA世界会議としては過去最高の3,000m<sup>2</sup>であり、また展示者数も過去最高の252団体（32カ国）であった。

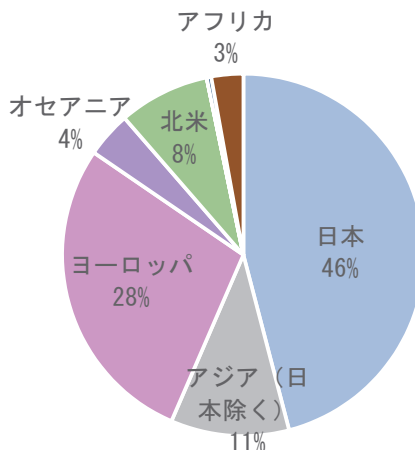


図-4 地域別出展者（プログラムブックより）



聴講席の様子

#### (1) ジャパン・パビリオンの設置

日本の企業・団体の先進的な取組みを国内外の来場者に周知することを目的に、開催国委員会においてジャパン・パビリオン（JP）の設置を企画したところ、91団体の参画を得ることができた。パビリオンのデザインは「和」を基調とし、総面積834m<sup>2</sup>の一体感のある形態で出展した。また、企業・団体を業種ごとに分けるため、カテゴリー別ピクトグラムを作成し、目的とする企業・団体を訪問しやすいよう工夫した。各カテゴリーの構成企業・団体は表-3のとおりである。



ジャパンビジネスフォーラムパネルディスカッションの様子



図-5 展示会见取り図

表-3 カテゴリー別ジャパン・パビリオン構成団体



【パブリック PUBLIC INSTITUTIONS】

(一社) 日本水道工業団体連合会、(公財) 水道技術研究センター、千葉県水道局、茨城県企業局、横浜市水道局、厚生労働省、(公社) 日本水道協会、北九州市海外水ビジネス推進協議会、川崎市上下水道局、(公財) 日本下水道新技術機構、水と暮らしを豊かにする浜松技術プラットフォーム (HARP プ)、東京水道サービス(株)、(株) PUC、東京都下水道サービス(株)、東京都水道局、東京都下水道局、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、独立行政法人国際協力機構

【水処理 WATER TREATMENT & SEWAGE TREATMENT】

東京計器(株)、住友電気工業(株)、東レ(株)、(株)神鋼環境ソリューション、(株)第一テクノ、(株)電業社機械製作所、(株)フソウ、西川計測(株)/横河ソリューションサービス(株)、(株)明電舎、三機工業(株)、水道機工(株)、東芝インフラシステムズ(株)、三菱電機(株)、(株)安斉管鉄、G-8 INTERNATIONAL TRADING (株)、共和化工(株)、(株)日立製作所、メタウォーター(株)、(一社) 浄化槽システム協会、オルガノ(株)、JFE エンジニアリング(株)、(株)ナガオカ、日本原料(株)、荏原実業(株)、(株)ダイセル、フジワラ産業(株)、(株)堀場アドバンスドテクノ、前澤工業(株)、月島機械(株)



【管路資機材 WATER PIPING SYSTEMS & EQUIPMENT】

(株)清水合金製作所、(株)昭和螺旋管製作所、(株)水研、コスモ工機(株)、日本水道鋼管協会、配用水ポリエチレンパイプシステム協会、(株)川西水道機器、(株)森田鉄工所、(株)栗本鐵工所、三井金属エンジニアリング(株)、大成機工(株)、日本ヴィクトリック(株)、日本鋳鉄管(株)、日之出水道機器(株)

【維持管理 OPERATION & MAINTENANCE】

フジテコム(株)、(株)グッドマン、東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)、第一環境(株)、水道マッピングシステム(株)、(株)パスコ、管清工業(株)、(株)トミス、(一社) 全国水道管内カメラ調査協会







【設計コンサルティング *CONSULTING & DESIGN SERVICES*】

(株)NJS、日本水工設計(株)、オリジナル設計(株)、日本工営(株)、(株)東京設計事務所 / (株)TEC インターナショナル、(株)日水コン、パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)中央設計技術研究所

【水道メーター・給水 *WATER METER/WATER SUPPLY*】

(一社)浄水器協会、アズビル金門(株)、(一社)日本バルブ工業会、愛知時計電機(株)



【その他 *MISCELLANEOUS SERVICES*】

(株)木村工業、(株)クボタ、(株)安部日鋼工業、(株)水道産業新聞社、日本電気(株)、川崎重工(株)、住友商事(株)、(株)デック、(株)日本水道新聞社

また、JPへの集客を促すため、以下のようなイベントを実施している。

① オープニングセレモニー

9月17日にセミナースペースにてオープニングセレモニーを実施した。出展者を代表し、宮崎正信日本水道工業団体連合会専務理事、そして開催都市を代表して小池東京都知事が開会の挨拶を述べ、その後テープカットを行った。

② セミナースペース発表

セミナースペースでは、JP出展者が企業紹介や海外での取組み等について来場者に向けて発表した。3日間にわたり18団体が発表し、計360名以上の聴講者を得た。



ジャパン・パビリオン



ジャパン・パビリオン オープニング

③ オリジナルグッズの配布

JPへより多くの来場者を呼び込むため、ロゴ入りのバッグ、ピンバッジ、そしてJPの出展団体を紹介したガイドブックを配布した。特に、ガイドブックは各団体のプロフィールが日英併記で掲載されていたため需要が高く、3,000部の配布が早期に終了した。

④ その他のイベント (ファンイベント・お茶・試飲会)

茶道の先生が水とお茶の関連性について説明しながらお茶を点てる点前パフォーマンス、セミナー発表聴講や出展者から入手した名刺を提示することで和扇子をプレゼントするファンイベント、そして東京の水道水で醸造された日本酒等が試飲できる試飲会を開催した。



点前パフォーマンス



次期開催地のデンマークパビリオン

## (2) ビジネスフォーラム

展示会に出展している企業や団体が、事業紹介や最新の取組みについて発表するビジネスフォーラムは展示会場内の2カ所で行われ、JPとして確保した枠での発表では、国内外より多くの聴講者を集めた。

## (3) 海外ブース等の概要

海外のブースでは、カナダ、オランダ、デンマーク、アフリカ、オーストラリア、中国等のパビリオンの他、様々な国の団体が出展していた(148団体)。特にデンマークは次回の2020年世界会議の開催地であるため規模が大きく、パビリオン内でのセミナー発表等、多様なイベントを実施していた。



カフェスタイルのオランダ企業のブース

## 4. ソーシャルイベント

会期中には、参加者間の交流を深めること等を目的として、以下のようなソーシャルイベントが開催されている。

### (1) ウェルカム・レセプション (9月16日)

ウェルカム・レセプションは中嶋正宏東京都水道局長の挨拶から始まり、開催国委員会やIWAの代表者計15名による酒樽の鏡開きが行われた。IWAのロゴが刻印された杓で日本酒が振る舞われ、会場となったアトリウムは大いに盛り上がった。続いて展示会オープニングのリボンカッティングへと移り、開催国委員会関係者や各国大臣等総勢13名が一行に並び、司会の掛け声とともにリボンに剣を入れ、展示会開場を祝した。



VIPによる鏡開き



展示会オープニング

## (2) ガーデン・ナイト (9月18日)

会議参加者に日本の文化を感じていただく催しとして、ガーデン・ナイトが東京都立清澄庭園にて開催され、約200名の国内外のゲストが参加した。天候には恵まれず、屋内での開催となったが、当日は小池東京都知事が参加するとともに、パフォーマー達は雨に濡れながらも圧巻の演舞を披露し、会場を盛り上げた。



d'Arras IWA 会長と小池東京都知事

## (3) ガラ・イブニング (9月20日)

ガラ・イブニングは閉会式の後、グランドニッコー東京台場の「パレロワイヤル」で行われた。まず、会場前でウェルカムドリンクの提供と点前パフォーマンスや獅子舞の練り歩きが行われ、多くの参加者が談笑に興じていた。開場後は、IWA 会長、IWA 専務理事、古米議長が今回の会議を振り返って感想を述べた。1,400人以上の会場は

満席で、コース料理が振る舞われ、歓談の時間が続いた。

晚餐の終盤、尺八や三味線を手にした和楽器の奏者がステージ上に現れ、現代風アレンジされながらも西洋音楽とはひと味異なるエキゾチックで繊細な演奏を、ユーモアを交えながら繰り広げた。これぞ日本!といった演出に会場にいた海外からの参加者も非常に盛り上がり、会議後の余韻を楽しんでいた。



ガラ・イブニング会場の様子

## (4) テクニカル・ツアー (9月21日)

首都圏にある上下水道施設や民間工場を巡るツアーが実施された。全5コースあり、「虹の下水道館」には25名、「砂町再生センター」には32名が参加をする等、大変盛況であった。

## 5. IWA 理事会等

## (1) IWA 理事会 (9月15日)

IWA の最高意思決定機関であり、IWA の活動について審議する IWA 理事会が、IWA 世界会議の開催前日に開催された。

会議は、IWA 会長挨拶、前回 IWA 理事会 (2017年9月チェコ・プラハ開催) 議事録承認の後、議事に入った。

## ① 過去12カ月の活動報告

IWA 会長、Silver Mugisha IWA 副会長 (会員管理特別委員会委員長)、IWA 専務理事より、過去12カ月の活動について報告が行われた。

会員規約 (雑誌の無料配布等、会員サービスの内容) を変更し、会員数が大幅に減少した2015年には、深刻な会費収入の減少、世界会議等のイベ



ント収入減が発生したが、その後、会員管理特別委員会設立による会員サービスのあり方検討、会員の理解促進、IWA コネクト導入等のネットワーク改善、IWA 開発会議 (ブエノスアイレス) の改革 (品質の高いプログラム、展示会の充実、参加者満足度の向上)、組織体制見直しによる IWA 職員の最適化により、収益は回復しつつあり、また、会員数も上昇傾向にあることが報告された。

その後、Marie-Pierre Whaley 会計監査役より、2017年会計決算についての監査報告があり、公正かつ妥当であることが報告された。

#### ② IWA 戦略プラン (2019~2024)

IWA 専務理事より、2019年から2024年にかけての IWA 戦略プランについて説明があった。当該戦略プランは IWA 理事会員、戦略評議会委員等からの意見を踏まえて策定されているとともに、基本骨子の優先順位についても理事等に事前アンケートを行っている。その結果、以下の優先順位の基本骨子に基づき、活動していくことが報告された。

- i. 魅力的かつバランスのとれた会員構成
- ii. 最先端の水知識の源泉
- iii. 水に関する知識を共有する場の提供
- iv. 研究と実践の橋渡し
- v. SDGs 達成の支援

#### ③ 2024年 IWA 世界会議の開催地域決定

IWA 会長より、過年度の開催地域を加味した結果、北米地域とヨーロッパ地域で開催地を選定していくことが提案されたが、参加理事より他の地域の可能性についても検討すべきとの意見があり、あくまでも両地域が望ましいとの前提で、他の地域開催の可能性も検討しながら、今後開催地を選定していくこととなった。

#### ④ IWA 役員 の 指名

Tom Mollenkopf IWA 上席副会長より、新しい 4 名の IWA 役員 の 指名 が 行 わ れ た。日本からは、古米弘明東京大学大学院教授が役員を退任し、新たに松井佳彦北海道大学大学院教授が選任されている。

#### ⑤ 副会長選挙

4 名の立候補者の演説の後に選挙を行い、Sudhir Murthy 氏 (米国 NEWhub CEO) が上席副

会長に、Enrique Cabrera Rochera 氏 (スペインバレンシア大学教授) が副会長に選任された。

以上の変更を反映した新役員は、以下のとおりとなる。

Diane d'Arras (会長) (フランス)

◎Sudhir Murthy (上席副会長) (米国)

◎Enrique Cabrera Rochera (副会長) (スペイン)

Kala Vairavamoorthy (専務理事) (オランダ)

Marie-Pierre Whaley (会計監査役) (英国)

Tom Mollenkopf (オーストラリア)

Silver Mugisha (ウガンダ)

Helle-Kathrine Andersen (デンマーク)

Hamanth Kasan (南アフリカ)

Daniel Nolasco (アルゼンチン)

Joan Rose (米国)

○松井佳彦 (日本)

○Perry Rivera (フィリピン)

○Teodor Popa (ルーマニア)

○Asma El Kasmi (モロッコ)

(◎: 新副会長、○: 新役員)

#### ⑥ IWA 戦略評議会との合同会議

IWA 戦略プラン (2019~2024) の基本骨子及びその優先性についての議論が行われた後、「IWA と水のデジタル化」、「水に対する人権 - 水分野の責任と義務 -」の講演が行われた。

また、合同会議の最後には、「東京への歓迎挨拶と日本の水分野」と題し、古米議長が東京への歓迎挨拶を行った。また、日本の水分野全体の理解を深めていただくよう、水道産業新聞社発行



古米議長による歓迎挨拶



「Water Japan」が参加者全員に配布された。

## (2) IWA-ASPIRE 評議会 (9月18日)

隔年で開催される IWA-ASPIRE 会議の開催地選定等、アジア太平洋地域の IWA 活動について審議する IWA-ASPIRE 評議会が、IWA 世界会議に併せて開催された。

会議では、冒頭に IWA 会長並びに IWA 専務理事が挨拶を行い、今回の IWA 世界会議 (東京) の成功を称えた。会議では、以下の議題が取り上げられた。

### ① IWA 世界会議 (東京) のハイライト

IWA 日本国内委員会委員長でもある古米議長より、IWA 世界会議 (東京) のハイライト、参加者数の速報等について説明があった。

### ② 2019年 第8回 IWA-ASPIRE 会議 (香港) の開催予定

- 会期：2019年10月31日(木)～11月3日(日)
- 会場：香港コンベンション&エキシビションセンター (HKCEC)
- 発表論文の募集：既に7月よりアブストラクト募集開始、11月30日に締め切り (その後2019年3月1日まで延長)

### ③ 2021年 第9回 IWA-ASPIRE 会議 (台湾・高雄市) の開催予定

- 会期：2021年10月
- 会場：高雄エキシビションセンター
- 発表論文の募集：2020年12月アブストラクト募集開始、2021年3月締め切り

### ④ 2023年 第10回 IWA-ASPIRE 会議開催地の選定

2023年第10回 IWA-ASPIRE 会議の開催地選定について、既に立候補の意思表示を行っているのは、オーストラリア (ブリスベン) とニュージーランド (オークランド) であることが IWA 専務理事より報告された。

今回の評議会にて、3名の IWA 事務局代表、3名の IWA-ASPIRE 評議会委員による評価委員会を設けることが決定し、IWA-ASPIRE 評議会委員には、過去開催地である韓国 (2013年)、中国 (2015年)、マレーシア (2017年) が選出された。この評価委員会により、2019年 ASPIRE 香港会議

までに、開催都市が決定される。

## 6. サイドイベント

本会議・展示会の開催に合わせて広く一般の方に水問題等への関心を持っていただくことを目的とし、9月17日から18日にかけて開催国委員会の主催によるサイドイベントを会場の東京ビッグサイト近くの TFT ホール500で開催した。

### (1) 世界の水問題と日本の水事情 (9月17日)

#### ① 水の未来を考える高校生ワークショップ

浅田安廣 Japan-YWP 代表による問題提起に続き、高校生等の研究発表 (6編) と質疑応答、最後に籠田大介 Japan-YWP 副代表によってラップアップが行われた。会場の参加者は、高校生独自の視点による研究を非常に興味深く聴講しており、質疑応答を大いに盛り上げた。(参加者54名)

#### ② PR イベント「世界と日本の水事情」

前半のトークセッションでは、ミス日本「水の天使」の浦底里沙さんを司会に、琵琶湖・淀川水質保全機構より有識者及びタレントの峯岸みなみさんをゲストに迎え、身近な水事情について話し合った。また、東京都水道局の高度浄水処理簡易実験や東京都下水道局の水圧くん等の体験ができるイベントも併せて実施された。(参加者216名)

#### ③ シンポジウム「私たちの暮らしと水-健全な水循環を考える-」

本シンポジウムでは、眞柄泰基給水工事技術振興財団理事長の問題提起を端緒とし、キリン (株)、TOTO (株)、ライオン (株) による水循



高校生等による研究発表

環に関する各企業の取組み等が紹介され、全員参加によるパネルディスカッションも行われた。その後の質問コーナーでは、これら有識者に対しゲストの峯岸さんから水に関する素朴な質問が投げかけられた。(参加者189名)



眞柄氏による問題提起

④ 水の作品展示

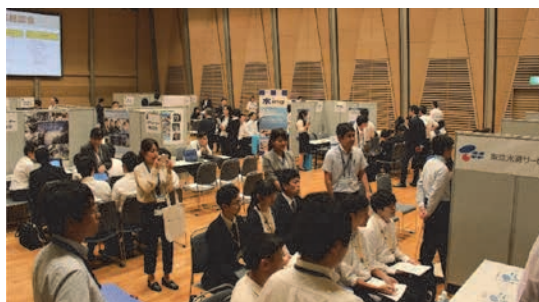
イベントの開催に合わせて、以下の作品を会場のロビーに展示した。

- ・ 高校生による水に関する研究ポスター
- ・ 水の作文コンクール受賞作品
- ・ 水とふれあいフォトコンテスト受賞作品

(2) 大学・大学院生必見！水業界研究セミナー (9月18日)

水業界の魅力を次世代に発信するため、IWA 世界会議・展示会という時宜を得て実施した本イベントへは、100名近くの学生の参加があった。専門家による講演のほか、開催国委員会活動応援企業から21社が参加した個別企業相談会では、企業からの説明に真剣に耳を傾ける学生の姿が見ら

れた。また、世界中の水関連企業が出展している展示会ツアーを実施し、国内外の最先端技術に触れることで、学生達は水業界への関心を高めているようであった。



個別企業相談会の様子

7. IWA 公式スポンサーについて

本世界会議・展示会では、国内企業から12社、海外企業から3社がIWAの公式スポンサーとなった。詳細は表-4のとおりである。

8. 開催国委員会活動応援企業

ジャパン・パビリオン、ジャパンビジネスフォーラム、サイドイベントの開催や、開催前、開催期間中の様々な広報活動等、開催国委員会が独自に行った様々な活動については、以下の64の企業・団体より多大なるご協力をいただいた。本誌を借りて、当該活動応援企業に対してお礼申し上げたい。

9. 閉会式 (9月20日)

冒頭で、今回の世界会議の3つのキーワード“デジタル化が水の世界にもたらす変革”、“健康で住みやすい都市に求められる政策”、“レジリ

表-4 カテゴリー別スポンサー企業

	カテゴリー	スポンサー企業
国内	プリンシパル	(株) クボタ
	プラチナ	コスモ工機 (株)、水 ing (株)、大成機工 (株)、(株) 日立製作所、(株) 明電舎
	ゴールド	管清工業 (株)、(株) 栗本鐵工所、JFE エンジニアリング (株)、日立造船 (株)、森松工業 (株)
	ウェルカム・レセプション	メタウォーター (株)
	モバイルアプリ	水 ing (株)
海外	ゴールド	Poten、Suez、Xylem



図-6 開催国委員会活動応援企業

エンス”を軸に3名の若手専門家より会議報告が行われた。その後、633編掲出されたポスターの中からアプリを用いた参加者による投票で上位に輝いた3名にベストポスター賞が贈られ、また2018年環境写真賞の表彰も行われた。その後、長谷川明東京都副知事が前回ブリスベン会議で策定した、水を基軸に考えた持続可能なまちづくりのあり方を示す“Principles for Water-Wise Cities”に署名した。

引き継ぎ式では、次回世界会議の開催都市であるコペンハーゲンのPRビデオが上映された後、会議開催都市が受け継いできた“トーキング・スティック”が古米議長から Anders Bækgaard コペンハーゲン会議議長へ手渡され、会議の開催が引き継がれた。



2020年の世界会議はコペンハーゲンへ

10. おわりに

2012年にIWA日本国内委員会において2018年開催地に日本が立候補することを表明してから6年、本協会は本会議の成功を陰から下支えする役割として尽力してきた。結果として、日本初開催のIWA世界会議・展示会は、過去最高の参加者を得て、盛会裏に終了することができた。これもひとえに産官学の垣根を超えたオールジャパンのご協力があったの成果と考える。本誌を借りて、全ての水関係者に厚くお礼申し上げたい。

次回、2020年IWA世界会議・展示会の開催地はデンマーク・コペンハーゲン、また、2019年10月にはIWA-ASPIRE会議・展示会が中国・香港において開催される。

今回参加された方の意見を伺うと、本会議は世界の水道を知る良い機会であるとともに、会議聴講や所属事業体の情報発信を通じて、自らの実情を再認識したとの声も聞く。このような国際会議の参加は、人材育成の良い機会でもあるため、論文発表等、今後も積極的なご参画をお願いしたい。

今回、本会議参加により得た知識、知見、ノウハウ、そして水道関係者のネットワークが、今後の日本及び世界の水道の発展に大きく寄与することを強く願う。